

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地		
専門学校麻生工科自動車大学校		平成20年3月31日	野見山 秀樹	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0634		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999		
目的	3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できるカリキュラムで、発想力が強く、物事に柔軟に対応できる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	自動車工学・機械設計科	平成22年文部科学大臣告示第152号		—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験
3年	昼間	2610	1230	1380	0	0
						単位時間
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200	人の内数	37	人の内数	2	人の内数	8 人の内数
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う			
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏季:8月3日～9月13日 ■冬季:12月22日～1月11日 ■学年末:1月30日～3月31日	卒業・進級条件	履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 補講の実施、休学、留年	課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等  自動車部品メーカー、産業機械メーカー  ■就職率※1 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合※2 : 100 % ■その他  (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年4月1日 時点の情報)	主な資格・検定等	3DCAD利用技術者2級 3DCAD利用技術者準1級 3DCAD利用技術者1級			
中途退学の現状	■中途退学者 10 名 平成28年4月1日時点において 在学者 40 名 平成29年3月31日時点において 在学者 39 名 ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルに沿った細かな面談の実施	■中退率 2.5 % (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)				
ホームページ	<a href="http://www.asojuku.ac.jp/acet/">http://www.asojuku.ac.jp/acet/</a>					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

3DCADを駆使した製品設計開発、各種工学知識、PLC(シーケンサ)、産業用ロボットなど企業に近い環境の中で実務スキルを身につけ、3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に生かしていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

(1) カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項

(2) 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項

(3) 教科書・教材の選定に関する事項

(4) その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム検討会議は、同条第1項の結果を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所 属	任期	種別
川口 巖	一般社団法人日本機械設計工業会 九州支部	H28.11.1～H29.10.31	①
下村 輝夫	福岡工業大学 学長	H28.11.1～H29.10.31	①
中村 仁	ダイハツ九州株式会社 品質課課長	H28.11.1～H29.10.31	③
赤塚 炎	株式会社 大興 顧問	H28.11.1～H29.10.31	③
野見山 秀樹	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長		
安部 倫太朗	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 主任		
坂口 利文	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則とし開催

6月に1回 前年度カリキュラムの課題について 9月に1回 次年度カリキュラムの説明

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月23日 13:00～14:30

第2回 平成28年9月2日 13:00～14:50

平成29年度

第1回 平成29年6月22日 13:00～14:30 (予定)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

カリキュラム内容、実施時期への反映

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し、ものづくりの設計開発から製造までを実習させる事により、学生の学習効果を高め、かつ即戦力となる事を基本方針とした学内教育を実施する。実習においては、「デザイン作業」等のスキルを身につけることを通じて、即戦力としての人材を育成する

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

デザイン会社経営者との連携で、実際のデザインの考え方や実践的なデザイン手法を体験させている

(3) 具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
デザイン実習	身近にある自動車を具体的にとり上げ、その仕様、形状設計、機能設計がどの様に行われているかの基礎を学び、次にそれをどのように改良改善するかについて演習する	ユウ・ワンデザイン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
3DCADを駆使した製品設計開発、各種工学知識、PLC(シーケンサ)、産業用ロボットなど企業に近い環境の中で実務スキルを身につけ、3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に活かしていく。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
1. 日本テクシード研修 (目的)3次元CAD教育方法講座 (概要)モデリング、図面作成の操作説明手順について (受講者)教員1名		
2. 日刊工業新聞社技術セミナー (目的)マツダの自動車開発及び技術の理解 (概要)ロードスターの新技術について ものづくりの新技術について (受講者)教員2名		
3. 日刊工業新聞社技術セミナー (目的)日産の自動車開発及び技術の理解 (概要)セレナの新技術について 自動運転技術について (受講者)教員2名		
②指導力の修得・向上のための研修等		
1. アドラー心理学 (目的)アドラー心理学活用による退学防止策とクラス経営術 (概要)アドラー心理概要、教師がつくる楽しい学習環境、カウンセリングマインド、やる気を引き出す 勇気付けの理論と技法 (受講者)1名		
2. 新任教員研修 (目的)①麻生塾の概要を理解し、自分の果たす役割を明確にする ②麻生塾のクラス運営、授業法を理解する ③同期入社間の交流を図る (概要)学校概要、学内ルール、業務内容、授業法など (受講者)教員2名		
3. ハーバード流 退学防止とクラス運営術研修 (目的)退学防止とクラス運営 (概要)世界で最も「成功」と「幸せ」について考えてきたハーバード大学の研究から構想された「幸せになる技術」を 基に学生の退学防止とクラス運営方法を学ぶ (受講者)教員1名		
4. 経営改革・教育改革研修 (目的)本研修では、専門学校特化型のアクティブ・ラーニング手法を用いた具体的な経営改革・教育改革の研修 (概要)「将来にわたり発展していくために学校改革の方向は、どこに向かうべきなのか」 「教職員の意識を変革しモチベーションを高めるためには」 「卒業生の評価を高める教育改革はどのように進めれば良いのか」 「国家資格の取得率を高めるアクティブ・ラーニング手法とは」「すぐに実践でき効果の高い教育改革とは何か」 「入学した学生の意識を変えるためには」「退学を止めるためには」 「募集力を高めるオープンキャンパスとは」「新たな学校種である専門職大学はどうしたら良いか」など (受講者)教員2名		
5. 心理療法カウンセリング講座 (目的)ネットトラブルへの対応 (概要)いじめ、不登校、ネットトラブルの学校や家庭での対応 (受講者)教員1名		

### (3)研修等の計画

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

##### 1. バンザイ研修

(目的)最新の整備技術、機器類について

(概要)未定

##### 2. 福岡トヨペット技術研修会

(目的)トヨタ車の技術、安全作業、新型車

(概要)未定

##### 3. いすゞ販売会社研修

(目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)技術:コモンレール、エアブレーキ

整備設備:工場見学

(受講者)教員1名

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

##### 1. 教育コーチング研修

(目的)教員の教育力向上と学校運営力の向上

(概要)コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながる  
アクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニング

##### 2. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修

(目的)クラス運営

(概要)学生への話し方、指導の仕方、グループ作りの手法、雰囲気作りについて学ぶ。1対多と1対1での  
話し方の違い、どういうケースにどちらが効果的かを学ぶ。

##### 3. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修

(目的)学則・学内規定

(概要)担当の学校の学則の内容を確認し、留意点を学ぶ。学則を基本とした各種学内規定について知識を  
深める。生活指導面、就職指導、成績評価、学内文書など。

#### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を 公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を 参画させていること。」関係

### (1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

### (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・ 育成人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表している
(2)学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3)教育活動	・学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の 取り組みをしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への 取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか
(4)学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表して いるか。
(5)学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6)教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7)学生の受け入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に 実施しているか。
(8)財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9)法令等の遵守	・学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の 実施体制が確立して改革・改善の為のシステムが構築が されているか

(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

1. 保護者会

(評価結果)三者面談方式での実施は有効

(活用状況)継続実施

2. 授業アンケート

(評価結果)アンケート結果に対し、主任と本人で共有しコメント記入は有効

(活用状況)継続実施

3. チュータ制度

(評価結果)ベテラン教員によるチュータ制度は有効

(活用状況)継続実施

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	H28.8.1～H30.7.31	企業
市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 営業業務部部長	H27.11.1～H29.10.31	企業
下西 明	ダイハツ工業株式会社 理事	H27.11.1～H29.10.31	企業
時松 真秀子	平成23年度卒業生	H27.11.1～H29.10.31	卒業生
杉本 誠	平成22年度卒業生	H28.6.1～H30.5.31	卒業生
林 紀子	保護者	H27.11.1～H29.10.31	保護者
村上 伸二	東比恵2丁目町内会	H27.11.1～H29.10.31	地域住民
大和 豊	筑紫台高等学校 校長	H27.11.1～H29.10.31	高等学校
下村 輝夫	ものづくり人材育成センター 顧問	H28.6.1～H30.5.31	団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・8月

公表方法 : <http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

公表時期 : 8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。校長は、その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、出願資格、出願書類、選考方法、入学手続き、校納金特別免除制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

学校法人 麻 生 塾 URL: <http://www.asojuku.ac.jp>

専門学校麻生工科自動車大学校 URL: <http://www.asojuku.ac.jp/acet/>

## 授業科目等の概要

#REF!														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学 I	理工学社発行 自動車工学入門 自動車の基本機能「走る・曲がる・止まる」のしくみに関する知識、自動車の性能・強度の基礎知識	1通	60	4	○		○			○	
○			工業力学	東京電機大学出版局発行 材料力学考え方・解き方 弾性理論の基礎知識。 構造物の強度解析の基礎知識	1通	60	4	○		○			○	
○			生産技術	自動車は製品の構想・設計を経て、工場部門での製造という過程を経るなかで造られる。その中で、設計者として何が必要なのかを生産技術の立場から理解する。	1通	45	3	○		○	○			
○			機械要素	日本実業出版社発行 学生のための初めて学ぶ機械工学 エンジンのしくみと性能熱から仕事への変換・低公害で燃費の良いエンジン	1通	60	4	○		○			○	
○			就職実務 I	職業理解と企業研究を重点に行う。 興味、価値観、性格、能力などの自己分析とキャリアプランニング	1通	30	2	○		○	○			
○			PC基礎	基本的な知識、表計算ソフト(Excel)、文書作成(Word) プрезентーションソフト(PowerPoint)の基本的な活用方法を習得する。	1通	60	4	○		○	○			
○			基礎数学	実教出版発行 これだけはおさえたい理工系の基礎数学 数式から方程式の基礎を理解する。 比と割合、指數関数と対数関数、ベクトル	1通	60	4	○		○			○	
○			基礎物理	河合出版発行 物理のエッセンス 力学・波動 力学や波動の基礎を理解する。 微積物理、次元解析	1通	60	4	○		○			○	
○			英会話 I	Pearson Japan 出版 「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での基本的な表現方法を学ぶ。	1通	60	4	○		○	○			
○			G C B I	人間教育（感謝の心とおもいやりの教育） 感謝の心が人間力の根底にあることを知る。人間力を高めるためのマナーの重要性に気つく。	1前	15	1	○		○	○			
○			P L M実習基礎	(株)ブレイン発行 CAE 解析初級編内容 各ワークベンチの基本的な操作方法 3次元CAD利用技術者 2級の取得を目指す	1通	180	12	○		○	○			

○		図学	機械製図の基礎を理解する。 図形や寸法の表し方、寸法公差およびはめあい、材料記号等	1通	60	4		○	○	○	○
○		加工実習 I	普通旋盤・フライス盤・ベンチドリル、各部の名称及び基本操作。各設備対応の切削工具と、その使い分け。基本課題切削、及び設備保全	1通	90	6		○	○	○	○
○		デザイン実習	絵を描く事の基礎を学び、実際に自動車のコンセプトデザインを作成する。 スケッチ作成の基礎を学ぶ。	1通	60	4		○	○	○	○
○		自動車工学 II	理工図書発行 自動車力学 自動車の性能・強度に関する力学的理論 主要装置の仕様内容	2通	60	4	○		○	○	○
○		熱・流体力学 I	機械設計技術者試験 3 級の取得を目的とした、熱・流体力学の基礎知識と試験対策を行う。	2通	120	8	○		○	○	○
○		材料力学 I	東京電機大学出版局発行 材料力学 考え方・解き方 弾性理論の基礎知識 構造物の強度解析の基礎知識	2通	60	4	○		○	○	○
○		就職実務 II	就職に対する心構えと準備を重点に行う。 自己分析、仕事研究などから自己PR、志望動機などの準備	2通	60	4	○		○	○	
○		英会話 II	Pearson Japan 出版「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での応用的な表現方法を学ぶ。	2通	60	4	○		○	○	
○		G C B II	人間教育（志の教育） 考えること、自分の言葉で伝える大切さを知る。行動する大切さに気づく。	2前	15	1	○		○	○	
○		P L M 実習応用	（株）ブレイン発行 C A E 解析中級編 実務シミュレーション課題にて実践力の基礎スキルを習得。 3次元CAD利用技術者準1級の取得を目指す	2通	120	8		○	○	○	
○		加工実習 II	構造品の製作・構造設計（加工図作成）・ 加工工程検討（内・外作の仕分け、他）・ 内作品の加工・品質確認（内・外作品とも）・組立配線	2通	90	6		○	○	○	○
○		メカトロ演習 I	シーケンサへの配線作業 及び 図面に関する基礎知識。シーケンサプログラミング作成方法とプログラミングに関する基礎知識	2通	120	8		○	○	○	
○		車両開発・製作実習 I	車両の設計を行い、実際に加工、溶接を行い走る、止まる、曲がるの車両を製作する。予算に合わせた構想を思考する。また、ベースとなる部分の加工を行う。	2通	180	12		○	○	○	○
○		自動車工学 III	自動車技術会発行 自動車工学－基礎－ 自動車の開発の流れ－設計から評価まで－ の業務内容・主要装置の設計方法の基礎知識	3通	60	4	○		○	○	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。